

都合により掲載致しません

初優勝を果たした南瀬谷ライオンズ



決勝戦	南瀬谷	1	0	4	1	0	0	0	6
	元石川	0	1	0	0	0	0	0	1



南瀬谷ライオンズの内、選手たちは良く戦ったが、選手たちは「コロナ禍のうえ、暑い日が続いた」と選手たちをたまためた。渡邊翔聖主将(6年生)も「相手に点を与えなければ勝てると思って戦った。結果が喜ぶを語った。」

優勝チームには、大会会長の佐々木重人学長から賞状、優勝旗、優勝力

地域とともに

スポーツを通じて神奈川県内の子どもの健全育成を支援する「2021専修大学カップ神奈川県学童軟式野球選手権大会」(神奈川県学童軟式野球連盟共催)が7月31日から8月6日まで、県内の4球場で開催され、各地区の代表54チームが熱戦を繰り広げた。2年ぶり15回目となった今大会は、開・閉会式の簡素化など、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を実施。6日に行われた決勝戦では、南瀬谷ライオンズ(横浜市瀬谷区代表)が元石川サンダーボルト(横浜市青葉区代表)を6-1で破り初優勝、15代目王者に輝いた。

第15代王者に南瀬谷ライオンズ

2021専修大学カップ

準優勝の元石川サンダーボルト

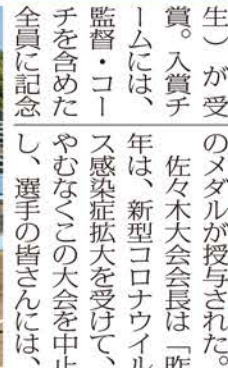


ツプが、神奈川県少年野球連盟から賞状・優勝

盾、横浜DeNAベイスターズから優勝カップが贈られた。また、優秀選手賞は南瀬谷ライオンズの中村知景選手(6年生)、敢闘賞は元石川サンダーボルトの横川蒼空主将(6年生)が受賞された。



優勝チームは、8月23日にtvkの昼のワイド番組「猫のひたいほどワイド」に出演し、喜びを語った。また熱戦の模様は、29日にtvkで特別番組として放送された。開・閉会式の司会は、笹村朱里さん(ネット情報4)が務めた。



開閉会式で司会を務めた笹村さん 本日に申し訳なく思っていた。今大会で改めて選手の皆さんのプレーを見て、レベルの高さに驚くと同時に、私たちがそのよう



開閉会式で司会を務めた笹村さん 本日に申し訳なく思っていた。今大会で改めて選手の皆さんのプレーを見て、レベルの高さに驚くと同時に、私たちがそのよう